

プロシージャーを使用したデータベースの更新

概要

GeneXus[®]

データ操作の方法

Web アプリケーションによる対話形式

カテゴリ

カテゴリ番号

カテゴリ名

削除 終了 実行

ビジネスコンポーネントによる内部処理

Category

Structure Web Layout Rules

名前	タイプ
Category	Category
CategoryId	Id
CategoryName	Name

プロパティ

BusinessComponent:ory

Name	Category
Description	カテゴリ
Module/Folder	Root Module
Business Component	True
Qualified Name	Category
Object Visibility	KnowledgeBase

InsertCategory

Source Layout Rules Conditions Variables

名前	タイプ
& Variables	
Standard Variables	
BCCategory	Category

Source

サブルーチン

```

1 &BCCategory.CategoryId = 22
2 &BCCategory.CategoryName = "観光地"
3 &BCCategory.Insert()
4 Commit
  
```

本コースでは、ここまでデータ操作の方法について、2つの方法を説明しました。

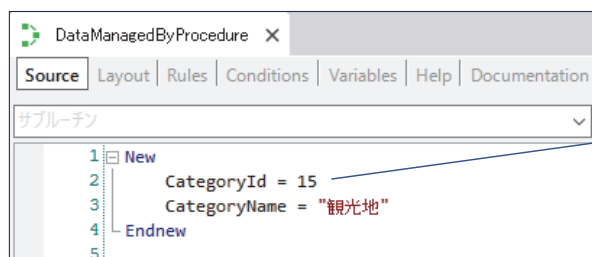
1 つは、トランザクションオブジェクトを作成し、実行した際に自動で生成される Web アプリケーションのインターフェースを利用した対話形式の方法でした。

もう 1 つは、トランザクションオブジェクトのプロパティを変更し、利用可能となる「ビジネスコンポーネント」という機能によるデータ操作でした。

この方法では、ナレッジベース内にトランザクションオブジェクトの定義に基づくデータタイプが作成され、まるでトランザクションオブジェクトのインターフェースを利用してデータ操作を行うようにロジックやルールがカプセル化された機能でした。

この機能を利用し、プロシージャオブジェクトや、Web パネルオブジェクトからもトランザクションオブジェクトの画面を利用した場合と同じデータ操作が行えました。

プロシージャオブジェクトによる新規登録 : New コマンド



自動採番の場合、不要

3 つ目の方法として、プロシージャオブジェクトで利用可能なコマンドによるデータ操作があります。

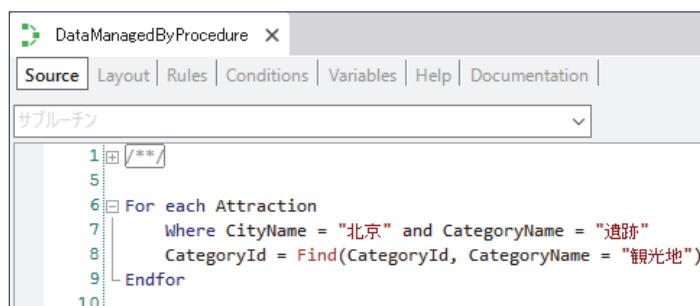
本コースでは、概要の説明のみを対象としています。

プロシージャオブジェクトで、データを新規登録する場合、「New」コマンドを利用します。

このコマンドは、New から Endnew の間に、登録したいデータに関する項目属性へ代入を記述します。

登録対象のテーブルは、記述された内容に基づき、GeneXus が自動で決定します。

プロシージャオブジェクトによる更新 : For each コマンド



プロシージャオブジェクトで、データを更新する場合、「For each」コマンドを利用します。

このコマンドは、For each から Endfor の間に、更新したい項目属性への代入を記述します。

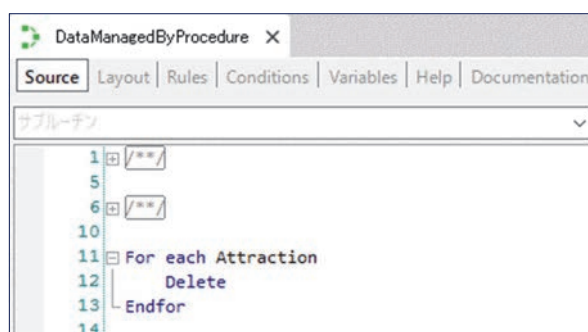
For each コマンドは、PDF 出力の説明の中ですでに利用し、ここで利用するコマンドも同じコマンドです。

処理として項目属性への値の代入を記述することで、データの更新が行えるコマンドでした。

既に説明済みのオプション節はすべて利用可能です。

また、更新可能な項目属性については、ベーストランザクション節に基づき、決定されるベーステーブル内の項目属性に加え、拡張テーブルに含まれる項目属性も対象とすることが可能です。

プロシージャオブジェクトによる削除 : Delete コマンド



プロシージャオブジェクトで、データを削除する場合、「Delete」コマンドを利用します。

ただし、このコマンドは、単体で利用することができず、削除対象のレコードを特定する必要があります。

このためには、For each コマンド内に記述する必要があります。

この For each コマンドで参照しているレコードが削除の対象となり、条件の指定などにより、対象のレコードを絞り込み、削除が行えます。

メリットとデメリット

デメリット

- 参照整合性の確認が行われない
- トランザクションルールがトリガーされない

メリット

- 処理が速い

プロシージャオブジェクトを利用したデータ操作の場合も、画面を持たずに処理を完了させることができます。

この点は、ビジネスコンポーネントを利用した場合と同じです。

ただし、ビジネスコンポーネントと比較すると、いくつかの差異があり、その中で明確にメリット、デメリットとなるものをスライドに明記しています。

その他、明確な差異としては、プロバイダーオブジェクトのコマンドによるデータ操作では、Commit コマンドの明記は必須ではなく、既定の挙動としてコミットが行われます。

GeneXus[™]